

平成 24 年 8 月 29 日	病虫害発生予報 9 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

平成 24 年度茨城県農薬危害防止運動期間中です (6/15～9/14)
～農薬を使用する際は、必ずラベルを確認し、
周辺状況を考慮して使用しましょう～

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
大豆：カメムシ類，チョウ目幼虫・・・・・・・・・・・・・・・・	1
サツマイモ：チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）・・・・・・・・	2
ナシ：ナシヒメシンクイ・・・・・・・・・・・・・・・・	2
果樹共通：カメムシ類・・・・・・・・・・・・・・・・	3
秋冬ネギ：ネギアザミウマ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
アブラナ科野菜：ハイマダラノメイガ・・・・・・・・	4
共通害虫：オオタバコガ・・・・・・・・	4
共通害虫：ハスモンヨトウ・・・・・・・・	5
【防除所レポート】：斑点米カメムシ類 ・・・・・・・・	6
【その他の病虫害】 ・・・・・・・・	7
大豆，ナシ，ブドウ，ナス，秋冬ハクサイ，抑制トマト，イチゴ	
施設野菜におけるウイルス病を媒介する微小害虫の防除対策について	8
II. 今月の気象予報 ・・・・・・・・	
<p>本文に記載されている薬剤は平成 24 年 8 月 20 日現在のものです。 最新の農薬登録内容は、(独) 農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel : 029-227-2445 予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/ フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

大豆

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在, ダイズ圃場における吸実性カメムシ類の主要種であるイチモンジカメムシの寄生虫数(幼虫及び成虫)は平年より多く, 発生地点率は平年よりやや高い。
- ② ダイズ圃場における吸実性カメムシ類として, イチモンジカメムシの他, ホソヘリカメムシ, クサギカメムシ等が確認されている。
- ③ 気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年より高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類の防除適期は莢伸長期～子実肥大中期(粒の直径が0.5～1cm程度)頃である。特に大粒種のタチナガハでは, 発生が多い場合, 莢が伸長する8月下旬頃から7～10日ごとに3回以上防除する。
- ② カメムシ類は, 莢が黄熟する頃まで加害を続けるため, 防除適期以降でも発生の多い圃場では, 収穫前日数に注意して防除を実施する。
- ③ カメムシ類の成虫は子実を加害しながら, 葉や莢に産卵する。卵からふ化した幼虫も子実を加害しながら成長するため, 幼虫の発生状況にも注意する。
- ④ 薬剤散布の際は, 薬液が葉だけでなく莢までかかるよう注意する。特に, 圃場の周縁部はカメムシ類の生息密度が高い傾向にあるため, 丁寧に散布する。

(平成24年8月29日発表 病害虫速報No.4参照)

2. チョウ目幼虫

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在, ハスモンヨトウの発生量は平年よりやや多い。その他のチョウ目幼虫(オオタバコガ, ツメクサガ等)の発生量は平年並である。
- ② 気象予報によると, 向こう1か月の気温は平年より高く, 降水量は平年より少ないと予想され, 発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるため, 圃場をよく観察し, 若齢幼虫のうちに防除を行う。
- ② ハスモンヨトウでは, 白変葉(若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉)の発生を防除の目安とする。

(大豆 チョウ目幼虫 続き)

- ③ 薬剤散布の際は、葉裏や着莢部にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

サツマイモ

1. チョウ目幼虫（ナカジロシタバ等）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害葉率は平年よりやや低く、発生地点率は平年並である。
- ② 8月下旬現在、ナカジロシタバの第三世代幼虫によると思われるつる先の被害を認めているが、寄生幼虫数は昨年より少ない。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ナカジロシタバは、第三世代幼虫の被害が最も大きい。老齢幼虫になると食害量が多くなるので、若齢～中齢幼虫の時期（丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期）の防除に努める。
- ② 薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

ナシ

1. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① フェロモントラップへの第二世代成虫の誘殺数は、笠間市、小美玉市、かすみがうら市及び土浦市で平年より多く、石岡市で平年並である。
- ② 8月下旬現在、フェロモントラップへの第三世代成虫の誘殺数は、笠間市（園芸研究所）で平年より多い。
- ③ 8月下旬現在、被害果率は平年よりやや低い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、次世代成虫の発生を防ぐ。
- ② 早生品種（「幸水」等）で被害果が認められた場合は、晩生品種（「豊水」や「新高」等）を対象に速やかに薬剤散布を実施する。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤散布を行う場合は、収穫前日数に十分注意する。

果樹共通

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、ナシの被害果率は平年よりやや高い。
- ② 8月下旬現在、果樹園に設置した予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数は、笠間市及びかすみがうら市で平年より多い。
- ③ 8月下旬現在、主要な餌場及び繁殖場所であるヒノキ林における果樹カメムシ類の幼虫の発生は平年よりやや少ないので、次世代成虫の発生も少なくなると予想される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動が鈍い早朝に薬剤散布を行う。
(平成 24 年 8 月 29 日発表 病害虫速報 No. 6 参照)

秋冬ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害度¹⁾は平年より高く（本年 68.7，平年 35.7），寄生株率も平年より高い（本年 100%，平年 71.8%）。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

1) 被害度は、葉身の食害程度を4段階に分けて区別し、以下の式により算出した値。
被害度 = { \sum (被害指数 × 被害指数別株数) / (最大指数 × 調査株数)} × 100
最小値は0，最大値は100で数字が大きいほど被害の程度が重い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 高温乾燥条件が続くとネギアザミウマの増殖が盛んになるため、発生状況に応じて薬剤散布を行う。なお、薬剤散布を行う場合は、収穫前日数に十分注意する。
- ② 雑草はネギアザミウマの生息場所となるため、圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布の際は、薬液が株元にも十分かかるよう丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

(平成 24 年 8 月 29 日発表 病害虫速報 No. 5 参照)

アブラナ科野菜

1. ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、笠間市で実施している誘引植物（クレオメ）を用いた調査において、ハイマダラノメイガ幼虫の寄生株率は、平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後、播種や育苗・定植を行うアブラナ科野菜は特に注意する。
- ② 本虫は、アブラナ科野菜の幼苗期（育苗期や本圃での生育初期）に、幼虫が生長点付近を加害する。加害されると芯止まりになるので、早期発見、早期防除に努める。また、薬剤の育苗トレイ灌注や定植時の粒剤施用は被害を未然に防ぐために有効である。
- ③ 苗床は、防虫ネット（1mm目合い程度）などで覆い、成虫の侵入を防ぐ。
- ④ 薬剤散布は、株の中心部や葉裏にも薬液がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は龍ヶ崎市で平年より多く、水戸市、土浦市で平年よりやや多く、筑西市で平年並である。
- ② 8月下旬現在、大豆等で幼虫の発生を確認している。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤の殺虫効果は低くなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ② レタスでは、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、発生初期及び結球始期の防除を徹底する。また、被害を未然に防ぐために薬剤の育苗トレイ灌注は有効である。
- ③ トマト、ピーマン等では収穫終期まで加害が続くので、発生しているハウスでは防除を徹底する。
- ④ 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

(共通害虫 続き)

2. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は水戸市、笠間市でやや多く、鉾田市、龍ヶ崎市で平年並であり、土浦市、筑西市で平年よりやや少ない。
- ② 8月下旬現在、大豆における幼虫の寄生虫数は平年よりやや多い。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤の殺虫効果は低くなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫の集団の早期発見に努める。幼虫が中齢以上になって分散して食害するようになると、被害量が増大するだけでなく、薬剤の効果も低くなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ② 大豆では、白変葉(若齢幼虫の集団加害によって白く透けた葉)の発生を防除の目安とする。
- ③ レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が入るとその後の防除が困難になるため、発生初期及び結球始期の防除を徹底する。また、薬剤の育苗トレイ灌注は被害を未然に防ぐために有効である。
- ④ 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

本県の主要種であるクモヘリカメムシの水田における成虫の発生量は、7月上旬は平年より少なく、下旬は平年並であったが、8月上旬は平年より多かった。幼虫の発生は、例年7月下旬から認められるが、本年は8月上旬から認められ、8月下旬までの発生量は平年より少なかった。しかし、8月下旬では、幼虫の発生量は平年よりも多く、平年の2.6倍となった(図)。

8月下旬現在、水田におけるクモヘリカメムシの発生量は、10回振りすくい取り虫数(成虫と幼虫の合計頭数)が全県平均1.6頭(平年値0.7頭)で、過去11年中1位である。地域別では、県北地域が5.3頭(平年値1.9頭)、鹿行地域が2.5頭(平年値0.7頭)で、県南地域とともにいずれも過去11年中1位であり、平年に比べて特に発生が多い(表)。

6月の気温が低めに推移したことにより産卵開始時期が遅くなり、幼虫の発生時期が遅れたものの、昨年がクモヘリカメムシの多発生年で越冬成虫が多かったことから、出穂期以降の8月上旬には成虫の飛来が多くなり、8月下旬に幼虫の発生量が平年より増加したと推察される。

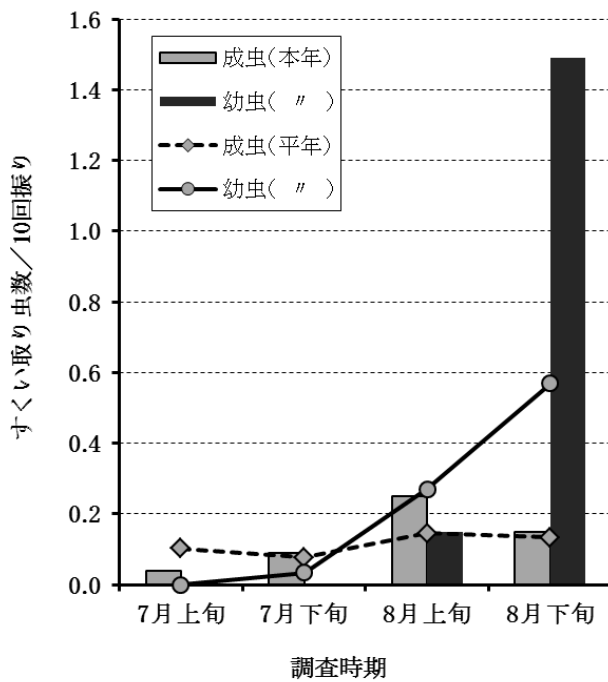


図 水田におけるクモヘリカメムシの成虫および幼虫の時期別発生量の推移

注) 県内調査全地点の調査結果の平均値による。
平年の値は過去10年(平成14~23年)の平均値。

表 本年8月下旬現在のクモヘリカメムシの地域別発生状況

調査地域	すくい取り虫数(平年値) ¹⁾	順位 ²⁾
県北	5.3 (1.9)	1
県央	1.3 (1.0)	4
鹿行	2.5 (0.7)	1
県南	0.6 (0.2)	1
県西	0 (0.1)	8-11 ³⁾
全県	1.6 (0.7)	1

- 1) すくい取り虫数は、水田における10回振り当たりの成虫と幼虫の合計値。平年の値は過去10年(平成14~23年)の平均値。
- 2) 順位は過去11年中の順位。
- 3) 8位から11位の値が同じであることを示す。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
大豆	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	8月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の20日後頃である。県内では，チオファネートメチル剤に対する耐性菌が出現しているため，それ以外の薬剤を使用する。
	ハダニ類	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は平年より少ないと予想され，発生を助長する条件である。
ナシ	黒星病	発生量：－	8月下旬現在，発病葉率は平年より高い。多発した圃場では，収穫後の防除を徹底する。特に，徒長枝に薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量：多い	8月下旬現在，平年より多い発生である。
ブドウ	褐斑病	発生量：やや多い	多発した圃場では，果実収穫後の防除を徹底する。病原菌の翌年への越冬を防ぐため，早期に落ちた葉は回収し，適切に処理する。
	べと病	発生量：平年並	
ナス	ハダニ類	発生量：やや多い	8月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
秋冬ハクサイ	軟腐病	発生量：－	台風等の雨を伴う降雨の後には，防除を徹底する。
抑制トマト	黄化葉巻病	発生量：やや多い	8月上旬現在，発生を確認している。発病株はただちに抜き取り適切に処分する。媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
イチゴ	炭疽病	発生量：やや多い	8月下旬現在，苗で発生を確認している。発病株は圃場外に持ち出して適切に処分するとともに，薬剤防除を徹底する。

施設野菜におけるウイルス病を媒介する微小害虫の防除対策について

施設野菜の微小害虫（アザミウマ類，タバココナジラミ等）は，食害，吸汁等による被害の他，各種ウイルス病を媒介する（表）ので以下を参考に防除を徹底する。特にウイルス病は生育初期に感染すると被害が大きくなるので注意する。

〔防除対策〕

- ① ハウスの開口部に防虫ネットを設置し，ハウス内への飛び込みを防止する。なお防虫ネットを設置した場合，通気性が低下し，病害の発生が助長されたり，ハウス内の温度が高くなることが予想されるので，ダクト通風やサイドの開閉，遮光資材の利用等，温湿度管理に十分注意する。
- ② 雑草は微小害虫の生息場所となるため，ハウス内外の除草を徹底する。
- ③ 多発生すると防除が困難となるので，初期防除に努める。なお，青色粘着板（アザミウマ類）や黄色粘着板（タバココナジラミ）の設置は，誘殺による防除の他，薬剤防除のための発生動向の確認に利用できる。
- ④ ウイルスに感染した株は，伝染源となるため早期に抜き取り，ビニール袋等に入れて密封し，株を枯らしてから処分する。

表 微小害虫により媒介される主なウイルス病と感染作物

種類	主な媒介ウイルス名	主な感染作物
ミカンキイロアザミウマ	トマト黄化えそウイルス (TSWV)	トマト，ピーマン，ナス
	キク茎えそウイルス (CSNV)	トマト，ピーマン
ミナミキイロアザミウマ	トマト黄化えそウイルス (TSWV)	トマト，ピーマン，ナス
	メロン黄化えそウイルス (MYSV)	キュウリ，メロン，スイカ
ヒラズハナアザミウマ	トマト黄化えそウイルス (TSWV)	トマト，ピーマン，ナス
ネギアザミウマ	トマト黄化えそウイルス (TSWV)	トマト，ピーマン，ナス
	アイリスイエロースポットウイルス (IYSV)	ニラ，ネギ
タバココナジラミ	トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV)	トマト
	ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV)	メロン，キュウリ，スイカ

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 8月25日から9月24日)

気象庁 (8月24日 発表)

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、期間の前半は少雨の状態が続くでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

前半は、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。後半は、天気は数日の周期で変わる見込みです。

<1週目の予報> 8月25日(土曜日)から8月31日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率70%

<2週目の予報> 9月1日(土曜日)から9月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 9月8日(土曜日)から9月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。